



城だより

第678号

日本古城友の会・会報 令和7年(2025)6月1日発行

美濃 大垣城を訪ねる(7月・第741回例会)

日時: 令和7年7月6日(日) 現地集合 雨天決行(雨天・酷暑時、行程変更あり)
集合: JR 東海道本線 大垣駅南口 10時40分
行程: 大垣駅 → 名古屋口門跡 → 小橋口門跡 → 東口大手門跡 → 天守・本丸(昼食)
→ 郷土館 → 南口大手門跡 → 大垣宿本陣跡 → 西総門跡 → 柳口門跡 →
竹橋口門跡 → 清水口門跡 → 圓通寺(戸田家廟所) → 辰之口門跡 →
大垣駅(解散 15時50分頃)

アクセス: JR 大阪駅 → JR 京都駅 → JR 米原駅 → JR 大垣駅
8:30 発(新快速近江塩津行) 9:00 発 9:55 着(乗換) 10:00 発(普通大垣行) 10:33 着
※米原駅での乗換時間が5分しかありませんので注意。
※ICOCA を利用の場合、大垣駅下車時に清算が必要です。又復路でも下車時に清算が必要です。(大垣駅はJR東海管内のため)

担当幹事: 鶴田圭子・藤岡秀典

持ち物: 弁当・飲物・帽子・ハイキング靴・タオル・雨具持参をお願いします。雨天時はおにぎりやパン等の食べやすいもの、酷暑時は飲物を多めにお持ちください。(駅前にコンビニあり) マスクの着用は各自の判断をお願いします。

参加費: 賛助会員・正会員 800 円、通信会員・当日参加者 1000 円

天守・郷土館入場料 200 円(参加者 20 人以上の場合 100 円) 別途受付で徴収します。

問合せ: 藤岡秀典(090-9970-1717) 平日・土曜は午後4時～午後9時

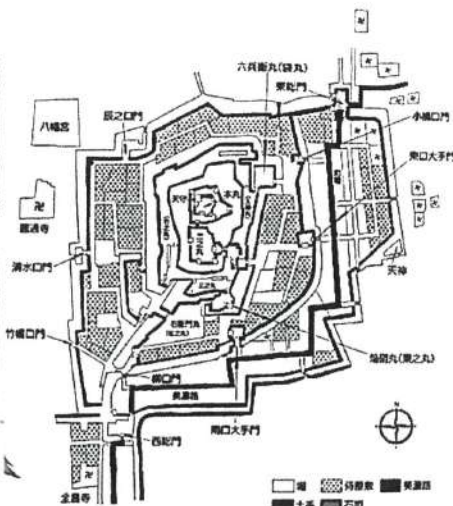
(開催は新型コロナ感染状況によります。必ずホームページを確認の上ご参加ください。)

【今回の見どころ】

続日本 100 名城に数えられる大垣城は、戦国時代に竹腰尚綱あるいは宮川安定によって築城されたと言われてい
ます。斎藤氏と織田氏の間で争奪戦となります。美濃三人衆の氏家直元(ト全)により整備された大垣城は、直元の離反により織田氏の城となります。天正地震(天正13年(1585))によって全壊したのち天守が築かれます。関ヶ原の戦いでは石田三成ら西軍の主力が入城します。江戸時代に入り石川氏・松



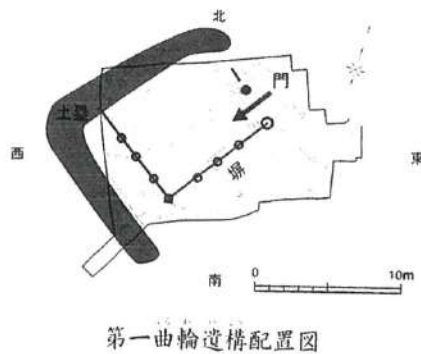
(大垣城天守)



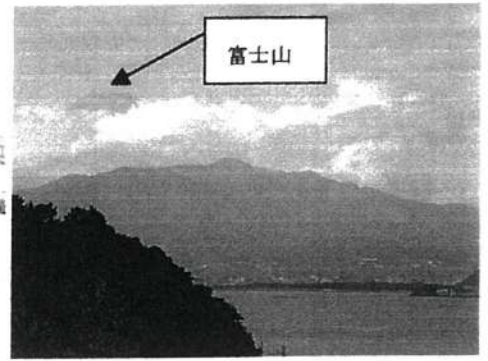
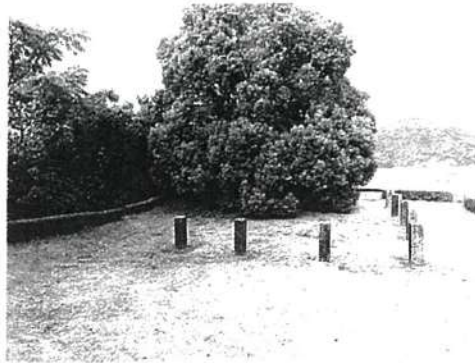
(『美濃国大垣城絵図 正保年間(1644-1648)』より作成)

(大垣城絵図 現地案内板より)

あしたかやま
あったと思われる。目を左に向けると愛鷹山の雲の上に富士山の頂部が見えた。やはり静岡に
来れば富士山は見たいものだ。



第一曲輪遺構配置図

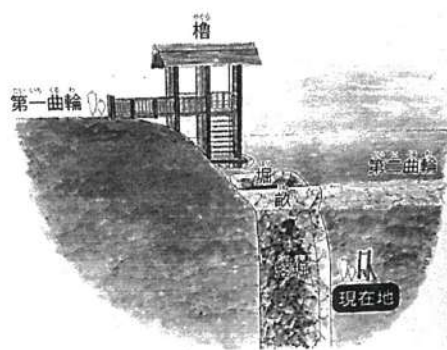


(写真4 第一曲輪遺構配置図現地案内板から)

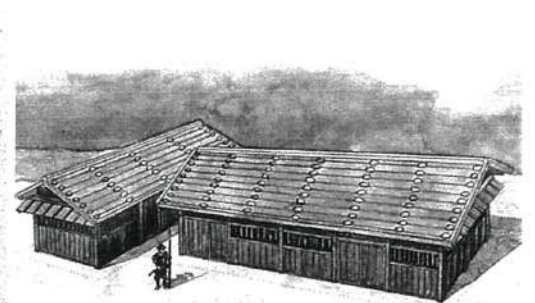
(第一曲輪 掘立柱建物の復元柱列)

(第一曲輪からの眺望 富士山の頂部が見える。)

「第二曲輪」に降りて
「堀切Ⅰ」を見る。説明板
によると、先ほど見た堅
堀Ⅰを登ってきた敵は仕
切り壁になっている畝状
の堀の残しに阻まれてこ
の堀に入ることができ
ず、容易に「第二曲輪」に
侵入することができない



(イラスト1 堅堀Ⅰと堀切Ⅰ)

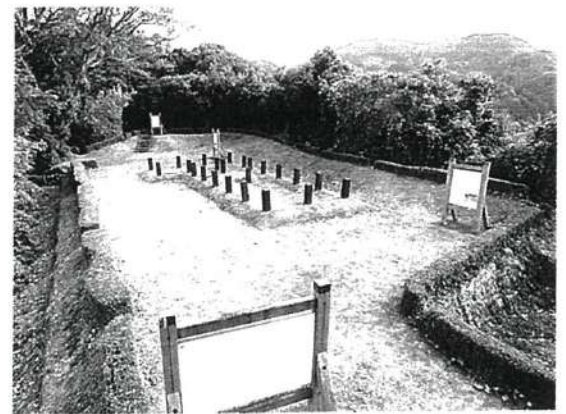


(イラスト2 曲輪Ⅱの掘立柱建物復元図)

構造になっている。この堀切は池のような構造で長さ 8
m、上幅 3m 下幅 2m 深さ 1.6m で安山岩の岩盤を削り取
っている。(イラスト 1) 第二曲輪には発掘調査で掘立柱
建物があつたことがわかっており、柱列が復元されてい
る。説明板には板葺き屋根の建物が復元図をして描かれて
いた。(イラスト 2) 第二曲輪北東斜面と東側の階段部に
石積が見られたがこれは後世のものと思われる。(つづく)

(参考文献)

- ・「伊豆水軍物語」(著) 永岡 治 1982 年 中央公論社
- ・「静岡県の歩ける城 70 選」(編著) 加藤理文 2017 年 静岡新聞社
- ・「静岡の山城ベスト 50 を歩く」(編) 中井 均・加藤理文 2009 年
- ・「東海の名城を歩く 静岡編」(編) 中井 均・加藤理文 2020 年 (株) 吉川弘文館



(第二曲輪 掘立柱建物の復元柱列)

日本古城友の会

会 長 中西 徹

事務局 事務局長 平川 大輔

HP アドレス <https://www.kojyo-tomonokai.com/>

編集・発行 編集部長 下岡 力